

公の施設目標管理シート（直営）

問合せ先 025-223-7236

年度	平成28年度		
施設名	新潟市児童センター	所管部・課	中央区健康福祉課
施設の設置目的	児童センターは児童に健全な遊びを与え、児童の健康及び体力の増進を図り、情操を豊かにすることにより、児童の健全育成に資することを目的とする。 「新潟市万代市民会館条例施行規則」		

当初予算(千円)		当初人員(人)		作成日	H28.5.16
歳入	-	正職員	-	修正日	
歳出	689	非常勤	5	評価日	H29.5.17

No.	視点	目標	評価指標					参考・補足	主な事業等	目標達成状況 未達成理由	評価	
			項目	H25実績	H26実績	H27実績	H28目標					H28結果
1	市民	児童・乳幼児と保護者の来館者数の増加	1日平均来館者90人以上（単位：人）	89.8	91.6	88.5	88	79.6	過去3年間の平均値相等の目標を設定した。	子育て支援の事業や活動の充実 日々、月々、年間の統計	乳幼児の親子だけでなく、小学生の来館者も減少した。ひまわりクラブやふれあいスクールなど子供の居場所が充実してきていることが挙げられる。	C:未達成
2	市民	申込制イベントの参加率の増加	申込制事業参加率80%以上のイベントが8割（単位：％）	—	—	—	80.0	62.5	これまではイベント参加人数を目標にしてきたが、実態と合わない点があり、目標を見直した。	来館者への積極的な声掛け 近隣小学校への働きかけ	参加率80%以上のイベントは6割程度であったが、ほとんどのイベントは70%に達していた。今後は、広報や声かけに努めていく。	C:未達成
3	市民	新規・継続使用団体の確保	年間26団体以上（単位：団体）	19	28	18	19	20	過去3年間の平均値を考慮し、前年度より1ポイント上げた目標値を設定した。	小学校の教育活動への提案や園外保育へのPR	小学校の校外学習や保育園の園外保育だけでなく、サークルなど各種の団体利用が増えた。	B:達成
4	市民	来館者の満足度	アンケートによる児童センター満足度「とても満足」75%以上（単位：％）	75.0	74.2	74.7	75.0	80.0	「とても満足」の割合に変更して4年目である。高い指標であるが、目標値を達成したい。	12月初～1月初に来館者対象のアンケート実施	全市で実施した子育て関連施設利用者アンケートを用い、目標値を達成することができた。今後も利用者目線に立った運営に努めていく。	A:達成(優)
5	市民	利用促進のための広報の充実	職員による訪問PRを12回以上（単位：回）	7	9	6	12	12	乳幼児の来館者数やイベント参加人数の減少傾向から、広報活動に積極的に取り組むための目標値である。	市内子育て支援施設等へ訪問広報活動。小学校生活科や園外保育受入のPR	公民館のゆりかご学級や小学校教員の研修会だけでなく、子育て出前講座や新一年生保護者会でも、広報活動を行った。	B:達成
6	業務	災害及び、事件・事故発生時の対応強化による安全安心の確保	万代市民会館全体で行う避難訓練に職員・来館者8人以上参加（単位：人）	22	17	5	5	3	子どもを遊ばせるために来館した人に避難訓練への参加を進めることは難しいため、指標を下方修正した。	勤務時間やイベントなどの調整 来館者が協力しやすい体制づくりや働きかけ	子どもたちが夢中になって遊んでいたため、参加の働きかけが消極的になってしまった。	C:未達成
7	業務	学生ボランティアの確保	年間60人以上（単位：人）	50	52	74	58	96	過去3年間の平均値相等の目標を設定した。そのため、指標を上方修正した。	ボランティア登録制度 大学のボランティア担当窓口への働きかけ	イベントのためのボランティアだけでなく、日常的なボランティアの人数が増えた。近隣の専門学校生の参加が増えた。	A:達成(優)
8	人材	地域組織活動グループとの連携	連携事業参加人数平均25人以上（単位：人）	26.1	24.1	23.7	24	22.6		連携強化のための相談や話し合い すみ分けや役割分担明確化による事業の充実	地域組織活動グループとの連携はスムーズにいき、計画通り活動が行われた。参加者数は微減であるが、内容は充実している。	C:未達成
9	人材	職員の自己改革や意識改革	研修会等へ職員の参加（平均1人1回 計10回以上）（単位：回）	8	9	9	9	9	研修の機会の減少や出張にくい体制であるが、過去3年間の平均値相等の目標値を設定した。	研修会への積極的な参加 自主研修の奨励	県主催や市保育課主催の研修会へ参加した。また、他の子育て支援施設の視察や情報交換会にも参	B:達成

取り組みについて(目標設定の考え方など)	総合評価（評価を踏まえた課題分析・方向性など）
<p>運営課題と向き合い、自らの資質・指導力の向上に努めるとともに、地域組織活動グループや小学校、他施設と連携し、来館者の確保や事業の充実を努めます。また、日々の施設遊具の点検や遊びの見守りを確実にし、安全安心で健全な遊びの場を子どもたちに提供します。</p> <p>口コミによるはじめての来館者が多数います。そのため、一人一人に応じた言葉かけや対応に努めます。「施設の広さや活動の充実度」「遊具の種類の多さ」「遊びの多様性」「一人一人とかわりながら具体的なアドバイスに努める職員の対応」「イベント参加時の楽しさ」等に加えて、「年齢差や学校枠を超えてかわり交流できる児童センターの良さ」を味わってもらえるように、日々、心のこもった丁寧な対応に努めます。</p>	<p>今年度は、「来館者数」「イベント参加率」「避難訓練参加者数」「連携事業参加者数」が目標値に達しなかった。その要因は、来館者全般の減少があると考えられる。内訳を見ると、これまでは幼児・大人の減少が目立ち、小学生は横ばいであったが、今年度は「小学生の減少」が大きくなった。特に、土曜日と水・木曜日の減少が目立つ。</p> <p>小学生減少の要因としては、携帯ゲーム機やバイブレード、カードゲーム等遊びの変化、習い事や塾、スポーツクラブへの参加や保護者の就労形態の多様化等、小学生を取り巻く様々な環境が変化していることが考えられる。さらに、放課後児童クラブやふれあいスクール等の小学生の居場所が充実してきていることも挙げられる。しかし、集団での遊びや異年齢交流を通して、社会性や思いやりの心、コミュニケーション能力など、</p>